

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月 29日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--|-------|-----------|
| 事業所番号 | 0190400010 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 手稲ロータス会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 手稲ゆうゆう | | |
| 所在地 | 065-0036 札幌市手稲区稲穂5条2丁目6番5号 011-688-1118 | | |
| 評価機関名 | 株式会社 社会教育総合研究所 | | |
| 所在地 | 札幌市中央区南3条東2丁目1 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年3月25日 | 評価確定日 | 平成20年4月7日 |

【情報提供票より】 (平成19年 12月 14日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | | |
|-------|--------|--------|-----|--------------------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 | 14年 | 4月 | 1日 |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18人 | |
| 職員数 | 14人 | 常勤 | 8人, | 非常勤 6人, 常勤換算 11.4人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|----------|------|-----|
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート | 造り | 併設型 |
| | 3階建ての | 3階部分 | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|----------|----------------|---------------------------------|
| 家賃(平均月額) | 43,500 円 | その他の経費(月額) | 光熱水費: 19,800 円 冷暖房費: 5,100 円 |
| 敷金 | 有(円) | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | 820 円 | |

(4) 利用者の概要 (12月 14日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 18名 | 男性 | 2名 | 女性 | 16名 |
| 要介護1 | 4名 | 要介護2 | 6名 | | |
| 要介護3 | 4名 | 要介護4 | 2名 | | |
| 要介護5 | 2名 | 要支援2 | 0名 | | |
| 年齢 | 平均 85.61歳 | 最低 | 74歳 | 最高 | 95歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------------------------|
| 協力医療機関名 | 西町内科クリニック・札幌秀友会病院・あおの歯科医院 |
|---------|---------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「手稲ゆうゆう」は、豊かな自然に囲まれた、同法人施設の一角に立地しており、母体法人「介護老人福祉施設」に併設された、3階にある2ユニットである。開設6年を経過し、このホームの「悠」「友」が目指す、ゆったりと、落ち着いた雰囲気の中で、利用者の得意な面を十分に活かした関わりが実現されている。ホームの運営に、ディサービスを組み込み、地域から通う利用者で交流し、多彩なレクや運動で、生き生きとした暮らしがつけられている。このような環境を提供するのに、運営者の職員定着率への取り組みや研修への支援があり、管理者は職員を信頼し、工夫を重ねながら一緒に取り組む姿勢は、利用者の安心にもなっている。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の評価で指摘があった点、契約書の利用者権利の文言も見やすく記述されており、薬の保管は適切である。金銭管理は、明細書と領収書を毎月郵送しているなど、いずれも改善されている。 |
| 重点項目① | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 管理者が自己評価表の案を作成し、各ユニットごとに、「自己評価会議」を開き、その内容を全職員で話し合い確認した。職員は自己評価の意義を理解し、日々のケアを考える機会になり、また、評価の項目から地域との関りの必要性に気づき、関心が深まっている。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。議題の中に、運営推進委員による評価や要望などの欄もあり、そこでの意見は、「職員会議」に報告し現場で生かせるように話し合っている。今回の評価についても、3月の会議で中間報告の予定でいる。市・区担当者とは、主に事務的な相談をする程度になっている。市、区が開催するグループホーム管理者会議には、職員も研修会に参加し、積極的にサービス向上に努めている。 |
| 重点項目③ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 「ゆうゆう便り」に、個人へのメッセージを添え、機関紙を通して利用者の暮らしを報告している。管理者は家族の来訪時には、職員も対応できるように指導し、気軽に相談できる雰囲気づくりをしている。意見箱を設置し、法人の第三者委員会、外部への相談窓口を分かりやすく掲示し、家族の苦情や意見の受け入れ体制をつくっている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 幼稚園の行事や小学校で毎年行なわれる「学習発表会」などに参加している。区の祭り、法人の「ロータス夏祭」は、地域住民との交流の場になっている。傾聴ボランティアなどの受け入れもある。今後、利用者の状態に応じて、老人クラブの活動に参加させたい意向もあり、運営推進会議に働きかけていくところである。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|---|----------------------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 地域密着サービスの意義を全職員で話し合い、住民との関係作りから「地域との交流を通して、社会の一員としての生活を維持できるように支援します」との内容を加えた、新しい理念をつくりあげている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念はエレベーター前、各ユニットの居間、職員室に掲示してあり、申し送りや各会議等で理念の共有を図っている。また、ケアの中で疑問がある時には、理念に立ち返って対応を確認している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 幼稚園の行事、小学校で毎年行なわれている「学習発表会」などに参加している。区の祭りや法人の「ロータス夏祭」に利用者も出かけ、地域住民との交流を楽しんでいる。傾聴ボランティアなどの受け入れもある。 | ○ | 町内会の加入を運営推進会議に働きかけており、利用者の状態に応じて、老人クラブ活動に参加させたい意向もあるので、利用者との地域住民との交流に期待したい。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 管理者が自己評価表の案を作成し、各ユニットごとに、「自己評価会議」を開き、その内容を全職員で話し合い確認した。職員は評価の意義を理解し、日々のケアを考える機会にもなっている。前回の評価で指摘のあった点は、すべて改善されている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|----------------------|----------------------------------|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月ごとに会議を開催している。議題の中に、運営推進委員による評価や要望などの欄があり、そこでの意見は、「職員会議」に報告し現場で生かせるように話し合っている。今回の評価についても、3月の会議で中間報告の予定でいる。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 札幌市・手稲区の担当者とは、主に事務的なことの相談になっている。市、区主催のグループホーム管理者会議には、職員も研修会に参加して、サービス向上への勉強や交流に努めている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 法人の機関紙「ぬくもり」の中にホームの行事を載せ、また、ホームの「ゆうゆう便り」には個人欄をつくり、利用者の暮らしを報告している。家族の来訪時には、日々の生活や健康面の情報を共有し職員も対応できるように指導している。金銭管理では明細書に領収書を添え郵送している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱の設置、法人の第三者委員会、また、外部への相談窓口など、家族からの苦情や意見の受け入れ体制を整備している。気軽に相談ができるように雰囲気づくりをしているが、苦情はなく意見があれば対応している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の定着率は良く、法人内での異動も6年間に2人ほどで、運営者は馴染みの関係を大切にして、安心感が得られる環境づくりに努めている。離職の際には、利用者に応じた報告をし、職員の声かけや側に座り精神的な面に配慮している。 | | |


| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|--|----------------------|----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人で年間計画を立て、月に1回の内部研修を実施している。新規採用時には、管理者が認知症や対応について指導し、実際の業務は現場に入り、先輩職員が教えている。外部研修は業務扱いで、必要に応じて年に1~2回は参加し、研修内容を勉強会で報告し共有している。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者は市・区のグループホーム管理者連絡会議に積極的に参加し情報交換や交流の機会を得ている。職員もスタッフ研修に参加しているが、次年度には同区のグループホーム間の相互訪問を予定している。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居の希望時には見学をすすめ、必要に応じて自宅訪問をして、本人、家族の意向や状態を確認し、顔馴染みの機会をつくっている。入居後は簡単な仕事をお願いし、新しい環境で安心感が得られるように職員の工夫で関わっている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は本人の得意な面を引き出し、人生の先輩者として関わっている。花や野菜の育て方を聞き、月に1回の特別メニューで、利用者が中心になって作る昔の料理「きりたんぼ」や「三平汁」など、野菜の切り方や味付を教わりながら一緒にしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|---|----------------------|---|
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時には、本人・家族の意向を聞き、日々の会話や行動から思いを把握している。コミュニケーションが困難な利用者には、表情や単語を見逃さないで、申し送りやカンファレンスで情報交換し意向の把握に努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 介護計画は、センター方式と三団体方式を併用し、利用者のやりたい事などの要望を聞きながら作成している。家族が訪問した時には、家族の意向を聞き、ケアプランに生かすようにしている。担当者と計画作成者が原案を作り、職員全員で話し合いをもち、本人主体の介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画は、6ヶ月毎の期間で定期的に見直しを行っている。健康面や食事摂取の悪化、歩行状態の悪化、入退院など体調に変化が生じた場合は、随時計画の変更や新たな介護計画を作成している。 | ○ | 体調など状態の変化がない場合にも、定期的な見直しと言う事で、3ヶ月に1度位の介護計画の見直しを期待したい。 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 24時間の医療連携体制を取っている。看護師がいることで、早期退院により、経口摂取や点滴の対応もしている。通院介助、特養の協力医の回診、歯科受診なども利用者や家族の要望に応じて柔軟に対応している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 心臓病など持病を持っている利用者は、家族の希望する、かかりつけの大きな病院と連携し、訪問診療に来て貰うケースもあり、医療機関と関係を密に結んでいる。特養の協力医による、週2回の訪問診療時、利用者の体調により、随時受診できるようにしている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入所時に、重度化した場合の対応の仕方を家族と話し合い、書類を作成している。重度化が考えられる頃から、家族と連携を密に取り、随時対応について話し合いを持ち、職員間で対応方針を共有している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 人生の大先輩という気持ちを大切に、丁寧な言葉で話しかける事を基本とし、利用者とのコミュニケーションの状態により、親しみのある言葉かけをするなど配慮している。個人記録の取り扱いにも充分配慮している。入浴介助は、全員女性職員で対応している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 趣味の裁縫や編み物など、在宅時と同じように出来るよう、利用者の希望に沿って対応している。起床や就寝時間、食事にかかる時間などは、利用者の状態を見ながら柔軟に対応している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 月1回利用者の希望を聞いて、パン食の日などを献立に入れ、楽しんで食事が出来るように配慮している。利用者の状態を見ながら声かけをし、職員と一緒に味付けや配膳、後かたづけをしている。職員と利用者が同じテーブルで一緒に食事を楽しんでいる。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は、希望に沿って毎日入浴出来るように準備をしている。足浴の希望者は、夜間も行う事ができる。日曜日は、母体施設の大浴場でゆったり入浴を楽しむ事ができる。入浴拒否者に対しては、職員が交代で声かけをする事によりスムーズに入浴ができています。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 共用型デイサービスのレクリエーションに参加して歌ったり、踊ったりして利用者が楽しく過ごせるように配慮している。月1回のバスレクを行い、外食やお花見など季節に合った楽しみが出来るようにしている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 利用者と一緒に買い物に出かけた時に、手稲山や前田森林公園などにドライブに出かけている。夏季は、ゴミ捨ての後などに散歩をしたり、近隣公園に出かけている。冬季は、バスレクやショッピングセンターに出かけたり、法人内の広い建物内を散歩している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 利用者の様子を察知して、外出しそうな時はさりげなく声かけしたり、一緒について行くなど、安全面に配慮して自由な暮らしを支援している。日中は玄関に施錠することなく、自由な暮らしを支援している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 火災に備え、スプリンクラーを設置している。避難訓練は、昼夜それぞれを想定して、利用者も参加して年2回、法人全体で実施している。災害時の連絡網を作成している。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分摂取量は毎日記録し、食事の摂取量は、体調に応じて記録し、食事量が低下している時は、栄養状態が悪化しないように、補食の工夫をしている。法人の特養の管理栄養士がたてた献立を使用し、専門的な栄養管理を行っている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ユニットの中央に台所があり、食事の準備や片付けの音、食事の匂いを感じる事ができる。雛人形やクリスマスツリーなどを季節毎に飾り、季節感を取り入れるようにしている。広いリビングに、ゆったりしたソファが置かれ、利用者が自分の家のように、ゆったり過ごせるように工夫している。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室の入り口には、利用者と職員と一緒に手作りした花が飾られている。居室には、使い慣れたタンスや仏壇、鏡台などが持ち込まれ、居心地よさに配慮している。以前飼っていた小鳥と一緒に暮らしている利用者もあり、自宅のような生活を支援している。 | | |

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。